



平成28年10月20日

各 位

上場会社名 日本電計株式会社
 代表者 代表取締役社長 柳 丹峰
 (コード番号 9908)
 問合せ先責任者 代表取締役専務 佐藤 信介
 (TEL 03-3251-5731)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成28年8月10日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成29年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	40,900	1,100	1,350	900
今回修正予想(B)	38,100	850	800	550
増減額(B-A)	△2,800	△250	△550	△350
増減率(%)	△6.8	△22.7	△40.7	△38.9
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成28年3月期第2四半期)	39,846	1,200	1,198	785

平成29年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	86,500	2,600	2,600	1,700
今回修正予想(B)	81,000	2,000	1,700	1,100
増減額(B-A)	△5,500	△600	△900	△600
増減率(%)	△6.4	△23.1	△34.6	△35.3
(ご参考)前期実績 (平成28年3月期)	85,174	2,689	2,504	1,618

修正の理由

1. 第2四半期連結業績

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、円高の進行により、輸出企業の景況感の悪化から、総じて力強さが欠ける状況となっております。当社グループが属する電子計測機器、電源機器、環境試験機等の業界においては、当社の主要なユーザーである電機業界では、スマホ需要の一巡やタブレット端末の販売停滞と円高の影響で、関連する半導体・電子部品メーカーの業績に不透明感が增大しております。また、自動車業界では、安全性に対するニーズ対応や自動運転の実用化への対応強化から安全性試験、環境試験等への取り組みは見られるものの、燃費不正による消費不振を背景として、設備投資には慎重な姿勢が顕著となっております。こうした環境下で当社グループは、国内・海外の営業拠点網を活用して、積極的なソリューションビジネスを展開してまいりました。

しかしながら、国内では、売上高は、当初2%程度の増加を計画しておりましたが、実績は前年対比で5%程度の減少となる見込みとなりました。損益面では、急速に進展した円高による評価損を含めた為替差損が2億5000万円程度発生する見込みとなりました。

また、海外では、中国を中心とする新興国経済の減速、株式の下落、英国の欧州連合離脱、テロの多発等で、全体として景気の減速感が強まっており、海外の販売子会社でも売上の減少に加え、円高による決算数値の減少もあり、当初想定していた業績予想を下回る見込みとなりました。

以上の理由から、平成28年8月10日に公表いたしました第2四半期連結業績予想を修正するものです。

2. 通期業績予想の修正

第3四半期、第4四半期につきましても、景気の不透明感や円高基調が続き、当社を取り巻く経済環境は依然厳しい状況が継続するものと思われまます。

通期業績予想につきましても、2四半期までの業績予想の下方修正分に加え、今後の見込みを勘案して修正するものです。

今後につきましては、当社グループの総力を挙げて、売上高の確保と連結営業利益20億円の達成に注力してまいります。

以上